

新規採用・削除医薬品等通知

新規採用医薬品通知

(薬品名)	アラグリオ顆粒分包 1.5g	市販直後調査 平成 29 年 12 月～平成 30 年 6 月
(英名)	ALAGLIO	
(規格・含有量)	1包中アミノレブリン酸塩酸塩 1.5g	
(一般名)	アミノレブリン酸塩酸塩	
(メーカー名)	中外製薬株式会社	
【薬価収載日】	2017 年 11 月	
【薬価】	74873.70 円	
【薬効コード】	87729	
【薬効分類名】	光線力学診断用剤	
効能・効果	経尿道的膀胱腫瘍切除術時における筋層非浸潤性膀胱癌の可視化	
用法・用量	通常、成人には、アミノレブリン酸塩酸塩として20mg/kgを、膀胱鏡挿入3時間前(範囲:2～4時間前)に、水に溶解して経口投与する。	
禁忌	1. 本剤又はポルフィリンに対し過敏症の既往歴のある患者 2. ポルフィリン症の患者〔症状を増悪させるおそれがある。〕 3. 光線過敏症を起こすことが知られている薬剤:テトラサイクリン系抗生物質、スルホンアミド系製剤、ニューキノロン系抗菌剤、ヒペリシン(セイヨウオトギリソウ抽出物)等、セイヨウオトギリソウ(St.John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品を投与中の患者〔「相互作用」の項参照〕 4. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人〔「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照〕	
相互作用	本剤作用増強 光線過敏症を起こすことが知られている薬剤:テトラサイクリン系抗生物質、スルホンアミド系製剤、ニューキノロン系抗菌剤ヒペリシン(セイヨウオトギリソウ抽出物)等、セイヨウオトギリソウ(St.John'sWort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品 その他 バルビツール酸系全身麻酔剤(チオペンタール)	
副作用	重大な副作用:肝機能障害 その他:悪心、嘔吐	
備考	泌尿器科限定薬	

(薬品名) マヴィレット配合錠		市販直後調査 平成 29 年 11 月～平成 30 年 5 月
(英名)	MAVIRET	
(規格・含有量)	1 錠中 グレカプレビル水和物(無水物として)100mg, ピブレンタスビル 40mg	
(一般名)	グレカプレビル水和物/ピブレンタスビル	
(メーカー名)	アヅヴィ合同会社	
【薬価収載日】	2017 年 11 月	
【薬価】	24210.40 円	
【薬効コード】	87625	
【薬効分類名】	抗ウイルス化学療法剤	
効能・効果	C 型慢性肝炎又は C 型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善	
用法・用量	<p>○セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のC型慢性肝炎の場合 通常, 成人には1回3錠(グレカプレビルとして300mg及びピブレンタスビルとして120mg)を1日1回, 食後に経口投与する. 投与期間は8週間とする. なお, C型慢性肝炎に対する前治療歴に応じて投与期間は12週間とすることができる.</p> <p>○セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のC型代償性肝硬変の場合 ○セログループ1(ジェノタイプ1)又はセログループ2(ジェノタイプ2)のいずれにも該当しないC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変の場合 通常, 成人には1回3錠(グレカプレビルとして300mg及びピブレンタスビルとして120mg)を1日1回, 食後に経口投与する. 投与期間は12週間とする.</p>	
禁忌	<p>1.本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者</p> <p>2.重度(Child-Pugh 分類 C)の肝機能障害のある患者</p> <p>3.アタザナビル硫酸塩, アトルバスタチンカルシウム水和物, リファンピシンを投与中の患者</p>	
相互作用	<p>本剤作用増強 アタザナビル硫酸塩[レイアタツ], シクロスポリン, ロピナビル・リトナビル, ダルナビルエタノール付加物/リトナビル, ダルナビルエタノール付加物・コビスタット</p> <p>本剤作用減弱 リファンピシン[リファジン等], カルバマゼピン, エファビレンツ, フェニトイン, フェノバルビタール, セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort, セント・ジョーンズ・ワート)含有食品</p> <p>他剤作用増強 アトルバスタチンカルシウム水和物[リピトール等], ジゴキシチン, ダビガトランエテキシラートメタン, スルホン酸塩, ロスバスタチンカルシウム, シンバスタチン, プラバスタチンナトリウム, フルバスタチンナトリウム, ピタバスタチンカルシウム水和物</p> <p>その他 エチニルエストラジオール含有製剤</p>	
副作用	5%以上の記載なし	

(薬品名)	ジャドニュー顆粒分包 90mg	劇
(英名)	JADENU Granules Sachet	
(規格・含有量)	1包中デフェラシロクスとして 90mg	
(一般名)	デフェラシロクス	
(メーカー名)	ノバルティスファーマ株式会社	
【薬価収載日】	2017年11月	
【薬価】	1433.80円	
【薬効コード】	873929	
【薬効分類名】	鉄キレート剤	
効能・効果	輸血による慢性鉄過剰症(注射用鉄キレート剤治療が不適当な場合)	
用法・用量	通常、デフェラシロクスとして12mg/kgを1日1回、経口投与する。なお、患者の状態により適宜増減するが、1日量は18mg/kgを超えないこと。	
禁忌	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2. 高度の腎機能障害のある患者〔腎機能障害が悪化するおそれがある。〕 3. 全身状態の悪い高リスク骨髄異形成症候群の患者〔重篤な副作用が発現するおそれがある。〕 4. 全身状態の悪い進行した悪性腫瘍の患者〔重篤な副作用が発現するおそれがある。〕 	
相互作用	本剤他剤作用減弱 アルミニウム含有制酸剤 他剤作用減弱 CYP3A4で代謝される薬剤(シクロスポリン、シンバスタチン、ミダゾラム、経口避妊薬等) 他剤作用増強 レバグリニド、トレプロステニル、テオフィリン 本剤作用減弱 UDP-グルクロノシルトランスフェラーゼ(UGT)を強力に誘導する薬剤(リファンピシン、フェニトイン、フェノバルビタール、リトナビル等)、コレステラミン その他 消化管潰瘍を誘発する可能性のある薬剤(非ステロイド性消炎鎮痛剤、副腎皮質ステロイド剤、経口ビスホスホネート等)、抗凝血剤	
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、急性腎障害、腎尿細管障害、肝炎、肝不全、消化管穿孔、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃腸出血、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、多形紅斑、聴力障害(難聴)、水晶体混濁(初期の白内障)、視神経炎 その他 血中クレアチニン増加	

(薬品名)	モーラスパップ XR240mg	
(英名)	MOHRUS PAP XR	
(規格・含有量)	膏体 12g 中に日局ケトプロフェン 240mg を含有	
(一般名)	ケトプロフェン	
(メーカー名)	久光製薬株式会社	
【薬価収載日】	2016年12月	
【薬価】	61.50円	
【薬効コード】	872649	
【薬効分類名】	経皮鎮痛消炎剤	
効能・効果	○下記疾患並びに症状の鎮痛・消炎 腰痛症(筋・筋膜性腰痛症、変形性脊椎症、椎間板症、腰椎捻挫)、変形性関節症、肩関節周囲炎、腱・腱鞘炎、腱周囲炎、上腕骨上顆炎(テニス肘等)、筋肉痛、外傷後の腫脹・疼痛 ○関節リウマチにおける関節局所の鎮痛	
用法・用量	1日1回患部に貼付する	
禁忌	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本剤又は本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者 2) アスピリン喘息(非ステロイド性消炎鎮痛剤等による喘息発作の誘発)又はその既往歴のある患者〔喘息発作を誘発するおそれがある。〕 3) チアプロフェン酸、スプロフェン、フェノフィブラート並びにオキシベンゾン及びオクトクリレンを含有する製品(サンスクリーン、香水等)に対して過敏症の既往歴のある患者〔これらの成分に対して過敏症の既往歴のある患者では、本剤に対しても過敏症を示すおそれがある。〕 4) 光線過敏症の既往歴のある患者〔光線過敏症を誘発するおそれがある。〕 	

	(5) 妊娠後期の女性
相互作用	本剤作用増強 メトトレキサート
副作用	重大な副作用 ショック、アナフィラキシー、喘息発作の誘発(アスピリン喘息)、接触皮膚炎、光線過敏症 その他 5%以上の記載なし

(薬品名)	ヤーズフレックス配合錠	市販直後調査 平成 29 年 4 月～平成 29 年 10 月
(英名)	YazFlex	
(規格・含有量)	1錠中、ドロスピレノン 3mg 及びエチニルエストラジオール 0.020mg 含有	
(一般名)	ドロスピレノン/エチニルエストラジオール	
(メーカー名)	バイエル薬品株式会社	
【薬価収載日】	2017 年 2 月	
【薬価】	275.0 円	
【薬効コード】	872482	
【薬効分類名】	子宮内膜症に伴う疼痛・月経困難症治療剤	
効能・効果	子宮内膜症に伴う疼痛の改善, 月経困難症	
用法・用量	1日1錠を経口投与する。24日目までは出血の有無にかかわらず連続投与する。25日目以降に3日間連続で出血(点状出血を含む)が認められた場合、又は、連続投与が120日に達した場合は、4日間休薬する。休薬後は出血が終わっているか続いているかにかかわらず、連続投与を開始する。以後同様に連続投与と休薬を繰り返す	
禁忌	(1) 本剤の成分に対し過敏性素因のある患者 (2) エストロゲン依存性悪性腫瘍(例えば、乳癌、子宮内膜癌)、子宮頸癌及びその疑いのある患者[腫瘍の悪化あるいは顕性を促すことがある。] (3) 診断の確定していない異常性器出血のある患者[性器癌の疑いがある。出血が性器癌による場合は、癌の悪化あるいは顕性を促すことがある。] (4) 血栓性静脈炎、肺塞栓症、脳血管障害、冠動脈疾患又はその既往歴のある患者[血液凝固能が亢進され、これらの症状が増悪することがある。] (5) 35 歳以上で 1 日 15 本以上の喫煙者[心筋梗塞等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。] (6) 前兆(閃輝暗点、星型閃光等)を伴う片頭痛の患者[前兆を伴う片頭痛の患者は前兆を伴わない患者に比べ脳血管障害(脳卒中等)が発生しやすくなるとの報告がある。] (7) 肺高血圧症又は心房細動を合併する心臓弁膜症の患者、亜急性細菌性心内膜炎の既往歴のある心臓弁膜症の患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。] (8) 血管病変を伴う糖尿病患者(糖尿病性腎症、糖尿病性網膜症等)[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。] (9) 血栓性素因のある患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。] (10) 抗リン脂質抗体症候群の患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。] (11) 手術前 4 週以内、術後 2 週以内、産後 4 週以内及び長期間安静状態の患者[血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなる可能性がある。] (12) 重篤な肝障害のある患者[代謝能が低下しており肝臓への負担が増加するため、症状が増悪することがある。] (13) 肝腫瘍のある患者[症状が増悪することがある。] (14) 脂質代謝異常のある患者[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。また、脂質代謝に影響を及ぼす可能性があるため、症状が増悪することがある。] (15) 高血圧のある患者(軽度の高血圧の患者を除く)[血栓症等の心血管系の障害が発生しやすくなるとの報告がある。また、症状が増悪することがある。] (16) 耳硬化症の患者[症状が増悪することがある。] (17) 妊娠中に黄疸、持続性痒痒症又は妊娠ヘルペスの既往歴のある患者[症状が再発するおそれがある。] (18) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性 (19) 授乳婦 (20) 骨成長が終了していない可能性がある患者[骨端の早期閉鎖を来すおそれがある。] (21) 重篤な腎障害又は急性腎不全のある患者[ドロスピレノンの弱い抗ミネラルコルチコイド作用により、血漿中レニン及びアルドステロン活性が上昇することがある。] (22) オムビタスビル水和物・パリタプレビル水和物・リトナビル配合剤を投与中の患者	
相互作用	本剤作用増強 HIV プロテアーゼ阻害剤(アタザナビル、インジナビル)、非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤(エトラビルン)、フルコナゾール、ポリコナゾール、アセトアミノフェン 他剤作用増強 副腎皮質ホルモン(プレドニゾン等)、三環系抗うつ剤(イミプラミン等)、セレギリン塩酸塩、シク	

	<p>ロスポリン、オメプラゾール、テオフィリン、チザニジン塩酸塩</p> <p>本剤作用減弱 リファンピシン、バルビツール酸系製剤(フェノバルビタール等)、ヒダントイン系製剤(フェニトインナトリウム等)、カルバマゼピン、ボセンタン、モダフィニル、トピラマート、テトラサイクリン系抗生物質(テトラサイクリン等)、ペニシリン系抗生物質(アンピシリン等)、テラプレビル、HIV プロテアーゼ阻害剤(ネルフィナビルメシル酸塩、リトナビル、ダルナビル、ホスアンプレナビル(リトナビル併用時)、ロピナビル・リトナビル配合剤等)</p> <p>非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤(ネビラピン)、セイヨウオトギリソウ(St. John's Wort、セント・ジョーンズ・ワート)含有食品</p> <p>他剤作用減弱 Gn-RH 誘導体(ブセレリン酢酸塩等)、血糖降下剤(インスリン製剤、スルフォニル尿素系製剤、スルフォンアミド系製剤、ビグアナイド系製剤等)、ラモトリギン、モルヒネ、サリチル酸</p> <p>その他 オムビタスビル水和物・パリタプレビル水和物・リトナビル配合剤、ヴィキラックス、テルビナフィン塩酸塩カリウム製剤(塩化カリウム、グルコン酸カリウム等)、AGE 阻害剤(カプトプリル、エナラプリル等)、アンジオテンシン II 受容体拮抗剤(ロサルタンカリウム、カンデサルタンシレキセチル等)、カリウム保持性利尿薬(スピロラクトン、トリアムテレン、カンレノ酸カリウム等)、非ステロイド性消炎鎮痛剤(インドメタシン等)</p>
副作用	<p>重大な副作用 血栓症</p> <p>その他 性器出血、不規則な子宮出血、プラスミノーゲン上昇、トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体上昇、悪心、頭痛</p>

(薬品名)	レクタブル 2mg 注腸フォーム 14 回	市販直後調査 平成 29 年 12 月～平成 30 年 6 月
(英名)	RECTABUL	
(規格・含有量)	1 プッシュ中ブデソニド 2mg	
(一般名)	ブデソニド	
(メーカー名)	キッセイ薬品工業株式会社	
【薬価収載日】	2017 年 11 月	
【薬価】	6940.60 円	
【薬効コード】	872399	
【薬効分類名】	潰瘍性大腸炎治療剤	
効能・効果	潰瘍性大腸炎(重症を除く)	
用法・用量	通常、成人には1回あたり1プッシュ(ブデソニドとして2mg)、1日2回直腸内に噴射する。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者	
相互作用	本剤作用増強 CYP3A4 阻害剤(イトラコナゾール、エリスロマイシン、シクロスポリン、コビシスタット等)、グレープフルーツジュース	
副作用	<p>重大な副作用 記載なし</p> <p>その他 血中コルチゾール減少、血中コルチコトロピン減少</p>	

(薬品名)	ジーンプラバ点滴静注 625mg	生	市販直後調査 平成 29 年 12 月～平成 30 年 6 月
(英名)	ZINPLAVA for Intravenous Drip Infusion 625mg		
(規格・含有量)	1 バイアル中、ベズロトクスマブとして 625mg		
(一般名)	ベズロトクスマブ		
(メーカー名)	MSD 株式会社		
【薬価収載日】	2017 年 11 月		
【薬価】	330500 円		
【薬効コード】	876399		
【薬効分類名】	抗 Clostridium difficile トキシン B ヒトモノクローナル抗体		
効能・効果	クロストリジウム・ディフィシル感染症の再発抑制		
用法・用量	通常、成人にはベズロトクスマブ(遺伝子組換え)として10mg/kgを60分かけて単回点滴静注する。		
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者		
相互作用	記載なし		
副作用	重大な副作用 記載なし その他 5%以上の記載なし		
備考	感染制御内科・消化器内科・消化器外科限定薬		

(薬品名)	ベンリスタ皮下注 200mg オートインジェクター	劇生	市販直後調査 平成 29 年 12 月～平成 30 年 6 月
(英名)	Benlysta for s.c. injection		
(規格・含有量)	1 シリンジ(1mL)中、ベリムマブ(遺伝子組換え) 200mg		
(一般名)	ベリムマブ		
(メーカー名)	グラクソ・スミスクライン株式会社		
【薬価収載日】	2017 年 11 月		
【薬価】	24547 円		
【薬効コード】	87399		
【薬効分類名】	完全ヒト型抗 BLYS モノクローナル抗体製剤		
効能・効果	既存治療で効果不十分な全身性エリテマトーデス		
用法・用量	通常、成人にはベリムマブ(遺伝子組換え)として、1 回200mgを1 週間の間隔で皮下注射する。		
禁忌	1 . 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2 . 重篤な感染症の患者[症状を悪化させるおそれがある。] 3 . 活動性結核の患者[症状を悪化させるおそれがある。]		
相互作用	記載なし		
副作用	重大な副作用 重篤な過敏症、感染症、進行性多巣性白質脳症、間質性肺炎 その他 5%以上の記載なし		

後発医薬品採用通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
<p>●<u>2月1日より</u></p> <p>テモゾロミド錠 100mg「NK」/テモゾロミド錠 20mg「NK」</p> <p>ポラプレジック OD 錠 75mg「サワイ」</p> <p>ラニチジン錠 150mg「YD」</p> <p>ロペナカプセル 1mg</p>	<p>テモダールカプセル 100mg/20mg</p> <p>プロマック D 錠 75mg</p> <p>ザンタック錠 150mg</p> <p>ロペミンカプセル 1mg</p>

削除医薬品通知

● <u>2月1日より</u>	
ヴィキラックス配合錠	在庫消尽後削除
ゼポラスパップ 40mg	削除
ブレラン錠 0.5mg	削除
ゾラデックス 1.8mg デポ	削除
チエナム点滴静注用 0.25g	削除

医薬品剤形変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
● <u>2月1日より</u>	
ヴィーン 3G 輸液 500mL（バッグ製剤）	ヴィーン 3G 輸液 500mL（ボトル製剤）

適応追加通知

ネキシウムカプセル 20mg	<p>【効能・効果】 （略）</p> <p>【用法・用量】 ＜ネキシウムカプセル20mg＞ ○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、Zollinger-Ellison症候群 成人 通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。</p>
----------------	---

小児

通常、体重20kg以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、症状に応じて1回10～20mgを1日1回経口投与する。なお、通常、胃潰瘍、吻合部潰瘍では8週間まで、十二指腸潰瘍では6週間までの投与とする。

○逆流性食道炎

成人

通常、成人にはエソメプラゾールとして1回20mgを1日1回経口投与する。なお、通常、8週間までの投与とする。

さらに再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法においては、1回10～20mgを1日1回経口投与する。

小児

通常、体重20kg以上の幼児及び小児にはエソメプラゾールとして、症状に応じて1回10～20mgを1日1回経口投与する。なお、通常、8週間までの投与とする。

以下、変更ないため省略